

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 教育方針

校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成する。

- 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校
- 2 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高める教育を実践する学校
- 3 学校行事やクラブ活動など協働的な活動を通して、自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高める学校

## 2 中期的目標

## 1 さらなる学力向上と進路保障

(1) 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。

ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。

\*単元の逆向き設計により、本質的な問いを設定。①思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、②思考の見える化（学習支援ソフト・グループワーク）、思考のゆさぶり（発表・議論・パフォーマンス課題）など、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へと転換をはかる、また、振り返りシートを共有するなど、学び方を協働的に学ぶことで「主体的に学びに向き合う力」を育成する。

イ リーディングGIGAハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。一人一台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。

(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。

ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。

イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。

ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間25回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和7年度に3項目すべてにおいて88%以上をめざす。（「授業満足度 R2:78.7%、R3:82.0%、R4:89.3%」「授業の工夫度」(R2:83.6%、R3:89.3%、R4:94.3%)「カリキュラム満足度」(R2:81.2%、R3:86.6%、R4:87.7%)

※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和7年度まで85%以上の維持・向上をめざす。(R2:87.9%、R3:88.9%、R4:94.4%)

※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和7年度に80%以上に向上させる。(R2:53.8%、R3:72.3%、R4:68.1%)

※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。(R2:38人、R3:41人、R4:46人)

## 2 キャリア教育のための環境づくり

(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。

ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。

イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要な3年間の系統だったプログラムを展開する。

ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。

※生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育満足度」を令和7年まで85%以上の維持・向上をめざす。(R2:87.9%、R3:88.9%、R4:94.4%)

(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。

ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。

イ 1人1台端末を活用し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。

※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和7年まで85%以上の維持・向上をめざす。(R2:80.8%、R3:86.7%、R4:92.2%)

※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和7年度に80%以上に向上する。(R2:60.4%、R3:41.3%、R4:62.8%)

(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。

ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。

イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。

※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和7年度まで90%以上の維持・向上をめざす。(R2:84.9%、R3:90.5%、R4:92.9%)

同じく「相談体制満足度」を令和7年度まで70%以上の維持・向上をめざす。(R2:65.7%、R3:70.5%、R4:78.6%)

## 3 学校改革に向けての体制づくり

(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。

ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。

地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。

<p>イ コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。</p> <p>(2) 学校に関わる団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との連携を強化し、広報・情報発信に取り組む。</p> <p>ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。</p> <p>イ 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。</p> <p>※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和7年度に90%以上をめざす。(R2:85.5%、R3:85.2%、R4:95.7%)</p> <p>※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和7年度まで90%以上の維持・向上をめざす。(R2:91.1%、R3:90.4%、R4:90.6%)</p>
---

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
一 更なる学力向上と進路保障	<p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。</p> <p>イ リーディング GIGA ハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等の ICT 機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。一人一台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。</p> <p>・授業力向上委員会（教育課程委員会）を中心に授業見学週間、授業力向上研修などの授業力向上のシステムの取り組みを推進する。</p> <p>リーディング GIGA ハイスクール推進委員会を立ち上げて研究校としての取り組みを推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。</p> <p>イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。</p> <p>ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間25回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。</p> <p>スクールミッション・ポリシー策定をふまえて、進路実績向上をめざしたカリキュラム、補習、部活動・行事・広報を含めた方向性を拡大経営会議・運営委が示し、「チーム狭山」として教育活動に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校自己診断結果の授業満足度86%以上 [89.3%]</li> <li>生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫度86%以上 [94.3%]</li> <li>授業アンケートの教員平均3.4以上 [3.43]</li> <li>研究校として、最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ公開研究授業を2回実施</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果カリキュラム満足度86%以上 [87.7%]</p> <p>・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導70% [66.6%]</p> <p>イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度85%以上維持 [94.4%]</p> <p>ウ・国公立大学・関関同立合格者：延べ70人以上 [46人*3月24日現在]</p>	
2 キャリア教育のための環境づくり	<p>(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する</p> <p>イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」75% [72.2%]</li> <li>生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」75% [75.4%]</li> <li>狭山池クリーンアクション</li> </ul>	

	<p>(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。</p> <p>(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。</p>	<p>ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。</p> <p>グローバルハイスクール委員会（国際交流部会・地域連携部会）が中心となって、国際交流及び地域連携の取り組みを推進する</p> <p>総合探究委員会が、高大連携・地域連携による「総合的な探究学習」の3年間の計画を示し、グローバルリーダー育成のコアカリキュラムとして推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。</p> <p>イ 教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上と人権課題についての理解を深める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートなどを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。</p> <p>イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。</p> <p>本年度より、教育相談委員会から教育相談委員会へと組織改編し、コア会議を定例開催とし、生徒情報の集約、背景理解に努め、適切な支援につなげる。</p>	<p>オンへの参加人数のべ500人 [約420人] *3月24日段階</p> <p>ウ・ビブリオバトル本大会出場をめざす。[学年単位で実施、本大会には参加せず]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識85%以上維持 [92.2%]</p> <p>・教職員向け学校自己診断結果の人権への取り組み70% [62.8%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度70%以上維持 [78.6%]</p> <p>・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度75%以上 [73.3%]</p> <p>イ 生徒向け学校自己診断結果「学校生活満足度」90%以上維持 [92.9%]</p>	
<p>3 学校改革に向けての体制づくり</p>	<p>(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。</p> <p>(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、小中学校、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。</p> <p>イ コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。</p> <p>イ 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」85%以上維持 [90.9%]</p> <p>・教職員向け学校自己診断結果の危機管理80%以上 [81.4%]</p> <p>・年2回の防災訓練実施 [2回]</p> <p>・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を年3回実施する。 [3回]</p> <p>イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度85%以上 [95.3%]</p> <p>(2)</p> <p>ア 本校の授業見学週間や地元中学校の公開授業での交流を実施。</p> <p>イ 「文化部フェスタ」の実施やクラブ交流として「狭山カップ」を実施。</p>	